

■ 戦略経営研究会 114th ミーティング議事録

日 時：2017年2月4日(土) 13:00-16:00

場 所：東京／渋谷「日本経済大学大学院／246ホール」

テーマ：あおいけあ流介護 ～療養上のお世話ではなく自立支援～

発表者：加藤忠相さん（株式会社あおいけあ代表取締役社長）

参加者：67人（発表者を含まない）

（財務コンサルタント、金融経済アナリスト、会社経営、医師、会社員、公務員、  
NPO 法人理事長、行政書士、司法書士等）

主 催：一般社団法人愛知アグリコラボ

健康産業イノベーション連盟

NPO 法人 ZESDA

戦略経営研究会

目次：

1. あおいけあの紹介
2. 認知症とは？
3. あおいけあと地域
4. 視覚と好環境
5. 認知症のじいちゃんばあちゃんと
6. あおいけあの活動の特徴について
7. まとめ

発表：

1. あおいけあの紹介

良い介護人材とはどのような人たちでしょうか？ 世間では良い介護人材が少ないとされています。これは、介護現場を提供する側の問題であり、介護職員の問題ではありません。

あおいけあは一般の介護施設がグレーゾーンとしていることも行っています。たとえば、酒やたばこの提供です。これらは人が生きていれば当然に嗜好するものです。しげさんは頑固な元職人さんです。利用当初はあおいけあに連れてこられると怒りますが、「棚がなっていない」といって棚を直してくれます。ホームセンターに職員を連れていって材料を揃えることもあります。あおいけあの（いどぼたの）棚はすべてしげさんのお手製です。「周りの人がいるから自分がいる」のだと言ってくれています。また、毎日、7000歩歩いています。しかし、すい臓がんであることが判明し、余命半年と宣告されました。そのころ、あおいけあにて職員の結婚式を行うことになっていました。新婦に父親がいないことから、しげさんがバージンロードを

一緒に歩いてもらうことになっていました。そんな中でのすい臓がんの判明です。しかも、しげさんの奥さんが先に亡くなってしまいました。精神的にも、肉体的にもぼろぼろです。このようなことから、結婚式でバージンロードを歩くのはお断りしようと思いました。夕方、仕事おわりにしげさんのお宅にお伺いしました。しげさんは庭で草むしりをしていました。お通夜だから、たくさん人が来るのできれいにしておくためです。お断りを告げると、手を握って、「心配するな、おれはバージンロードを歩く。結婚式で務めを果たす」と答えてくださいました。翌春、近所の千本桜にて花見がありました。がんの痛みがすごい中、顔見知りの団子屋さんのおばちゃんに「来年も来るぞ」とお話しされました。また、私の出張中に、スタッフから湯河原の温泉にしげさんと二人で行ってきますというメールが届きました。あおいけあでは、スタッフは自分で考えるのが仕事です。リーダーは考える環境をつくるのが仕事です。介護職員はそもそも高いホスピタリティを持っています。介護の手数も多いです。私がOKしそうだったら、独自の判断をしても良いことになっています。その代り、責任は私がとります。人はいつ死ぬか、わかりません。今、この瞬間に何ができるかが重要です。じいちゃんばあちゃんを相手にして「ここからは医療」「ここからは看護」といった具合に、介護と分けるべきではありません。分けると何のために仕事をしているかわからなくなります。たとえば、介護でも日勤か夜勤かどうかなどで分けるべきではありません。介護で関わったじいちゃんばあちゃんとは最後の瞬間までお付き合いしたいです。途中で別の介護施設に移ってしまうなど、最後まで一緒にいられないことが一番つらいです。

一般のデイサービスでは、じいちゃんばあちゃんはずっと座り続けなくてはなりません。歩いたりすると、徘徊しているとして、認知症扱いされます。これは、じいちゃんばあちゃんを1人称で考えていないからです。介護の目的はじいちゃんばあちゃんの自立支援のはずなのに、じいちゃんばあちゃんの支配・管理になっています。これでは、介護職員は来ませんし、じいちゃんばあちゃんを好きな人は介護の現場を選びません。仮に選んでも、やめてしまいます。このような状況を提供しておいて、介護人材の質は低いとするのはおかしいことです。

## 2. 認知症とは？

認知症は病気です。原因病に対して「症状」が現れます。しかし、この「症状」が他人から見えないことが問題です。見えないがゆえに人に助けってもらえず、不安にのちています。その不安を解消しようとしてでの「行動」です。たとえば、不安・焦燥、うつ状態、幻覚、妄想、徘徊…これまで介護職員はこれらの行動に接すると、その行動に対応してしまいます。拘束、薬物投与を行うなどです。これは、支配・管理です。ケアではありません。これでは介護現場に人材は来ません。介護にできることは良い環境と心理状態をつくることです。どこの事業所でも、じいちゃんばあちゃんは何が好きか、何が得意かというアセスメント（プロフィール）をとっています。介護は病気にて困った環境、精神状態になっているじいちゃんばあちゃんを支えることです。支えることができれば、認知症で困ってはいないのでただのじいちゃんばあちゃんになります。じいちゃんばあちゃんを一人称で考えることが大切です。そのためには、

介護職員が自分で受容できる環境とケアかどうかを考えることです。自分がされて嫌なことを人にしてはいけません。介護する人とされる人を分ける必要はありません。

### 3. あおいけあと地域

あおいけあは小規模多機能型居宅介護です。近所の人達も入れるようにしてあります。書道教室も開催しており、週100人ぐらいが受講しています。また、近所の公民館にて、子育てサークルをしているお母さんたちがあつまり

じいちゃんばあちゃんが子育て相談を行うなど、場所づくりを行っています。また、おおくの介護施設は広過ぎます。じいちゃんばあちゃんは呼びかけられても、自分のことだと気付きません。なので、突然触られたと騒ぐことになり、介護拒否と見られてしまいます。相手の立場になって考えていないのです。あおいけあは、接近戦を薦めています。この写真に写っている職員は1人しかいません。利用者がそれぞれお茶を注いでいます。そもそもお茶を注ぐことに介護職の専門性が必要でしょうか。あおいけあの介護職員の業務は記録と自動車の運転です。掃除、洗濯をじいちゃんばあちゃんと一緒に行うからケアになります。ある意味、じいちゃんばあちゃんにお茶を注いでもらうのが仕事といえます。

### 4. 視覚と好環境

目に見えている情報は視床に入り、視床下部からホルモンが出ます。意識はいろいろなものの集合体ですので、悪い環境は痛みや不安に引っ張られます。気分を分散させることが必要です。視床情報は環境（施設）によります。快適な情報が入るようにすべきです。たとえば、板の間です。これは、じいちゃんばあちゃんだけでなくスタッフも同じです。

### 5. 認知症のじいちゃんばあちゃんと

指が変形している、認知症のばあちゃんは外に出るのを嫌がっていました。飼い犬も自宅内にほったらかしで、勝手にドックフードを食べていたので、チワワなのに体重が8キロもありました。自宅内は飼い犬の糞尿だらけでした。現在は飼い犬と一緒にグループホームにいらしています。今は飼い犬の散歩ができるようになりました。飼い犬の体重は4.5キロになりました。天涯孤独状況の認知症のばあちゃんはゴミ屋敷に住んでいました。ヘルパーなどみな追い返してしまいます。あおいけあにてケアをすることになりました。認知症ですので記憶を司る海馬の状況は悪くなっていますが、感情を司る扁桃体は無事です。つまり、快不快はわかります。なので、1日何回も笑顔で短時間訪問しました。記憶は残りませんが、感情は残ります。あおいけあの職員に対して好感情を持ってもらうことができたので、公園の清掃をお願いできるようになりました。じいちゃんばあちゃんはあおいけあに来ると、ばあちゃんは皿洗い、じいちゃんは洗車をしています。気仙沼から来た認知症のばあちゃんがいきました。あおいけあに来ても、とても遠慮されていて、消極的でした。しかし、三陸の特産である「ほや」をさばくことはできますので、あおいけあにて「ほや」をさばいてふるまってもらいました。あおいけあのみんなが「美味しいね」とほめました。すると、自分から動くようになりました。自分が

いて良い場所と気付いたからです。というわけで、あおいけあは、認知症の人たちにお世話はしていません。

介護の昔のイメージは国がかわいそうな高齢者の面倒を見てあげるというものでした。福祉の一環です。たとえば、介護職員がお茶を配ります。世話をする側、される側に分かれています。その後制定された介護保険法は高齢者が居宅で自立した生活ができるように、自立支援を行うことを目的にしています。また、地域包括ケア制度により、じいちゃんばあちゃんが介護施設の外へ出れるように、また近所の人たちが介護施設の中に入れるようになりました。たとえば、じいちゃんばあちゃんが公園の清掃をできるようになりました。近所の人たちから「ありがとう」と言ってもらえるようになりました。介護職員はお茶を注ぐのが仕事ではありません。じいちゃんばあちゃんが誇らしくしていけるようにするのがし仕事であり、それが幸せです。じいちゃんばあちゃんも誰かの役に立ちたいと思っています。認知症でもできます。しかし、一般の介護職員はそれをさせません。そうではなく、介護職員はじいちゃんばあちゃんが誇りを持つことのできる環境を作るべきです。認知症のじいちゃんに、農業を教えてくださいとお願ひしました。鍬であつという間に畑を作ってくれました。認知症になっても生産の手順や季節の感覚は忘れません。人には忘れない記憶があるのです。

#### 6. あおいけあの活動の特徴について

人生にタブーはありません。介護保険法は、酒、たばこを禁じていません。ですので、あおいけあのじいちゃんばあちゃんはビールを持ってきます。一升瓶を持ってきます。夜には酒盛りが始まります。元芸者のばあちゃんは相手に注いで、飲んでもらうのが好きです。とはいえ初めのころ、多くの事業所がこういう事例の際に市役所に電話してお伺いをたてますが、介護職員と市役所職員のどちらが介護のプロでしょうか？ 介護のプロは介護職員のはずです。

神奈川県庁が始めた「かながわ福祉サービス大賞」応募して、大賞を受賞しました。そのプレゼンテーションの際には、酒、たばこの写真をどんどん使い、席上の賛同を得ました。もはや藤沢市役所から文句はありません。県知事にもPRしましたので、県庁からも文句はありません。堂々と行って、世論を変えてしまうべきです。

じいちゃんばあちゃんとすいとんを作りました。じいちゃんばあちゃんかた鶏がらから作ると美味しいと提案があり、介護職員が賛同し、すぐ買い物に行き、その日のうちにお料理をしました。一般の介護施設だと稟議を行います。お料理までに2～3週間がかかります。あおいけあでは、すぐにじいちゃんばあちゃんのやりたいことがやれます。脳の血流が良くなり、せん妄は出ません。幸せホルモンが出ますから痛みも感じにくい。30分以上にわたり身体も動かしますので、心肺機能も維持できます。あおいけあの場合、後期高齢者でも要介護度が下がります。

改善する方が多いです。悪くなった人は一人もいません。すなわち、介護保険料の削減ができ

ます。お話しの方もポイントです。すいとん作りの場合、「こんにやく、どうやった良いのかな？」と困ってみます。すると、ばあちゃんが「私がやるよ」と言って、お料理をしてくれます。じいちゃんばあちゃんが自分で選びとるような声掛けが大切です。海外の事例（ユマニチュード）によると、高齢者とのコミュニケーションは、まず部屋に入る前にノックをします。これで高齢者は覚醒します。ついで、介護職員の姿が高齢者の目に入るようにします。これで高齢者が介護職員を意識します。その上で、「お風呂に入りませんか？」と問掛けを行います。同意を得たら、お風呂に入れます。そこで、いろいろとお話しをして、盛り上へます。そして、「次も来ます」と行って退室します。静岡大学情報学部の研究の結果、ユマニチュードとあおいけあには共通点があります。実は上記のコミュニケーションをあおいけあの介護職員は行っていました。あおいけあには「ねばならない」がありません。また、3分以上かかるときは、ケアの提供をしないことにしています。扁桃体の好悪判断にひっかからないようにしています。一般の介護施設ではお風呂の時間が決まっています。介護職員のトップゴールは「お風呂に入れること」になってしまっています。このため、高齢者を無理にでもお風呂に入れます。これは、高齢者の悪感情になっていきます。あおいけあはお風呂+信頼関係をトップゴールとしています。介護職員も困らなくなります。冬場に近所に散歩に行くとしみます。たいがい「寒いから嫌」となりますが、「公園の清掃に」、「花壇の手入れ」にと誘うと出てくれます。あおいけあのじいちゃんばあちゃんは地域のための作業を行っています。地域の資源になっています。あおいけあの敷地の一部が通学路になっています。ですので、近所の子どもたちが勝手に敷地で田植えのマネをします。じいちゃんばあちゃんの稲はちゃんと生長するのに、子どもたちの稲はいまいちです。すると、子どもたちはじいちゃんばあちゃんがすごいということがわかります。子どもたちはじいちゃんばあちゃんが認知症と気付いていません。じいちゃんばあちゃんは近所の子どもたち向けの駄菓子屋も行います。もっとたくさん売りたいと言っています。認知症なので、お釣りの計算はできません。子どもたちが計算してくれています。この駄菓子屋は大人気です。お菓子が足りなくなることもあり、子どもたちからクレームがつくこともあります。餅つきも行っています。認知症のばあちゃんが餅を配り、喜んで来てくれるのが地域の人たちです。地域の人たちをもてなしています。流しそうめんも行っています。子どもたちと一緒に竹をもらいに行き、じいちゃんが切り出します。ぞうきを縫って、小学校に寄付しています。子どもたちがあおいけあにお礼に来てくれます。地域包括ケアになっています。

介護職員の娘さんは、中学生のころから、あおいけあに来ていました。ですので、じいちゃんばあちゃんに面倒を見てもらっていました。高校3年生となった時、私や母親である介護職員に相談なく、就職先をあおいけあに決めました。学校の先生から連絡があり、びっくりしました。この娘さんが、先にお話ししたあおいけあで結婚式を行う介護職員です。初め、結婚式をしないつもりでしたが、じいちゃんばあちゃんがブーケやケーキを用意してくれることになり、みんなで結婚式を挙げることになりました。

(結婚式のDVDを映写しました。あおいけあをモデルにした映画「ケアニン」のスタッフが撮影し、編集しました。本年の初夏、「ケアニン」が上映されます。映画に出てくるような認知症の高齢者はいないということを知って欲しいという思いからです)

結婚式を挙げた介護職員は、その後、出産しました。出産の1週間後には、赤ちゃん連れで出社しました。ばあちゃんみんなが赤ちゃんを大切にしてくれています。毛糸の帽子を編んでくれました。

## 7. まとめ

あおいけあは現在、不登校の生徒2人がお手伝いしてくれています。また、あおいけあの介護職員の人数は基準どおりです。すごい介護職員もいません。無資格から経験を積んでいっています。自閉症の不登校の子が外に出れるようになりました。困っていたことがあるからこそ、他の困っている誰かの相談に乗ることができます。介護は高齢者にケガをさせない、風邪をひかせないことではありません。介護だけでなく病院もまた、地域の中でその人らしく生き、その人らしく死ぬためにあります。地域で感謝される人であること、あれるようにお手伝いすること、それがお互いの幸せとなるはずです。

以上